

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第851号 平成26年12月15日

男らしい男（1）

11月10日に映画俳優の高倉健氏が亡くなると、11月28日には、まるで高倉氏の後を追うかのように菅原文太氏までもが亡くなってしまいました。

高倉健氏は享年83歳、菅原文太氏は同じく81歳という事ですが、半世紀以上にわたり日本の映画界を支えて来られたそのご活躍に、心からの敬意を表したいと思います。

高倉健氏といえば任侠映画で一時代を築いていますが、その後は「八甲田山」「幸福の黄色いハンカチ」「南極物語」「鉄道員（ぽっぽや）」「あなたへ」といった、ヤクザの世界とは一線を画した数々の作品に出演し、見る人に大きな感動を与えて来ました。特に遺作となった「あなたへ」を観た時、亡き妻への真直ぐな愛情、妻に先立たれた男のどうしようもない哀歓、そして、仕事に対しても世間に対しても愚直すぎる程に愚直、そうした主人公の姿は演技を超えたもののように私には感じられました。

一方の菅原文太氏は、劇団四季の1期生として入団しており、舞台俳優が芸能界への第1歩だったようです。本格的な映画デビューは1958年（昭和33年）の「白線秘密地帯」ですが、1973年から始まった「仁義なき戦い」で代表されるヤクザ映画路線でぎらついたヤクザを演じて、人気を不動のものとししました。

その後、「トラック野郎」シリーズでは、乱暴だが憎めない長距離トラック運転手を好演し、彼が演じた「一番星」に憧れて長距離トラックの運転手になった人も少なくないと聞きます。また菅原文太氏は、映画以外にも数多くのテレビドラマに出演していますし、声優としても活躍しています。彼は晩年、無農薬農業に取り組む他自然保護や反原発等の活動にも強い関心を寄せ、また、多数の講演活動も行っています。こうした彼の生き様は、2001年（平成13年）に長男を事故で亡くした事が影響しているのかも知れません。

12月2日付の朝日新聞に、「菅原さんの動、高倉さんの静」と評伝していますが、まさしく、そのとおりだと実感します。巷間、高倉健氏と菅原文太氏との不仲説も伝えられていますが、本当のところはどうだったのでしょうか。私はむしろ、高倉氏と菅原氏は役者としてのタイプが全く違うが故に良きライバルだったのではないかと感じています。いずれにせよ、高倉健と菅原文太という、昭和の男を代表するようなお二人が亡くなられて、昭和という時代がますます遠い存在となった事を強く感じます。（塾頭：吉田 洋一）